

共同助成(釧路方面遊技業協同組合)

「無料塾継続運営活動資金及び 新型コロナウイルス予防対策費」事業

新型コロナ感染拡大という厳しい状況下で 貧困家庭の子どもたちを対象にした無料塾

北海道・釧路市の中心部から西へ約30キロの太平洋岸に位置する白糠町では、日本の地方に典型的に見られる高齢化と過疎化が進展しつつある。この地で高齢者のための保健福祉活動に取り組んできたNPO法人が、地域の将来を担う子どもたちのために家庭の貧困による教育格差を解消するため、無料塾の運営に取り組んでいる。



町内の貧困家庭の子どもを対象にした無料塾「希望塾」



町内の貧困家庭の子どもを対象にした 無料塾の開講で教育格差解消を目指す

北海道の白糠町に拠点を置くNPO法人「陽向ぼっこ」は、認知症予防啓発、高齢者の居場所づくり、子どもたちのためのおもちゃ図書館や子ども食堂の運営など、地元住民の保健医療や福祉の増進を図る活動や交流の場を提供する活動に取り組んでいる。

こうした活動を続ける中で、誰もが家庭の貧困が理由で教育に格差が出てはいけない。子どもたちは皆平等に知識を学び育つ権利を持っている。しかし現実には貧困家庭の子どもは教育格差問題ばかりではなく、生活にも困窮している家庭が多い。そのために教育費にお金をかけることができず、有料塾には入会させられず、教育の格差を生む結果となっている。こうした状況を是正しようと、同法

人ではPOSC(当時、AJOSC)の助成を受け、町内の貧困家庭の子どもを対象にした無料塾「希望塾」を2020年度に開講し、その運営に当たっている。

2年目にあたる昨年度もPOSCの助成を活用し、無料塾の事業に継続して取り組んだ。当初は4月のスタートを予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響で、講師に予定していた大学生が参加できないことになり、急遽、元工業高校の教員をしていた地元住民にお願いすることになった。その後、新型コロナ対策として三密を回避するために小学6年生に限定して生徒を募集したところ、14名の応募者があったので、その人数で5月からの開始となった。

週3日の学習指導を基本にして 和太鼓、食事会、遠足なども実施

無料塾では週3日(放課後、1日2時間)を基本に、国語、算数、英語の3教科を中心に指導している。11月には国語、算数の試験を実施したところ、講師をはじめ、関係者が驚くほどの成績を取めた。また、無料塾では体験学習として日曜日には和太鼓の講習(大人も参加可能)も行っているほか、食事会や阿寒湖畔遠足も実施した。子どもたちのなかには遊覧船に乗ったことのない子どももいて、大変な喜びようだった。他にも学校から真っ直ぐ塾にやって来る子どもたちが多いため、お腹をすかせた子どもたちのために理事長が毎回、ポケットマネーでおやつを買って提供している。

事業を振り返り、理事長の儀同さんは、「貧困家庭ゆえに生活苦と教育の格差に悩んでいる子どもたちに希望の光を与え、生きる勇気と楽しさを提供できるように頑張っ

ています。参加している子どもたち子どもたちばかりではなく、それぞれの親からも、『寒い冬場でも子どもたちに暖かい塾で勉強を教えてもらえて、おかげで安心して仕事やパートの仕事ができます』といった感謝の言葉が寄せられています。変異株の登場などで新型コロナの終息がなかなか見通せないなかで無料塾を続けることにはかなりの困難が伴いますが、この事業には大変に大きな責任と使命があると痛感しています。子どもたちの教育格差を無くすためにも、また子どもたちや親御さんの期待に応えるためにも、今後も頑張って継続していきたいと思っています」と、話す。

釧路方面遊技業協同組合より

地域の将来を担う子どもたちが、家庭の貧困による教育格差に苦しまないための有意義な取り組みだと評価しています。



無料塾では学習指導だけでなく体験学習として遠足などのイベントも実施



助成団体・特定非営利活動法人 陽向ぼっこ



教育格差是正のために助成金をいただき、感謝しております

テーマが貧困家庭の子どもが対象という、どちらかと言えばあまり歓迎されない事業に御協力と御支援をいただき、どれだけ生活困窮者の家族の皆さん方が感謝と御礼の言葉を伝えたいと思っているか計り知れません。私たちの町で生活苦に苦しんでいる子どもたちに希望の光を届けるために、これからも頑張っていきます。

特定非営利活動法人 陽向ぼっこ
理事長 儀同 一義さん